

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

**2023年度 宮城民医連医師総会**

2023年  
日時▶4月15日(土) 14:25~20:30予定  
場所▶AER5階 多目的ホール  
(仙台市青葉区中央1丁目3-1)

[HPH学習講演会] 講師: 福庭 勲医師  
(日本HPHネットワーク運営委員・埼玉協同病院 副委員長)

[学術活動交流企画] ポスターセッション 他

主催/宮城民医連医師部事務局 内線2226 小野寺・佐藤

# みやぎ民医連

発行所 宮城県民主医療機関連合会  
仙台市青葉区木町通1-8-18  
〒980-0801 田村ビル5F  
TEL 022-265-2601  
FAX 022-263-8266  
e-mail:dai@miyagi-min.com  
発行人 坂 田 匠  
1日・15日 月2回発行 1部 50円



入職した研修医

コロナ禍になり、冬の風物詩だった入試宣伝は実施できぬまま経過し、宮城民医連の奨学生もなかなか誕生しないうまま、2年が経過しました。新入生とのつながりは、この間実施してきた食糧支援活動や、東北大学の早期地域医療実習から細々と作り出してきました。今後は、医療活動や魅力を伝える機会を作れることが求められています。そういった状況から、今年は春から様々な取り組みを行っていく予定です。3月には水戸部秀利医師に全面協力いただき

## 民医連の「いいところ」を一緒に学生たちに伝えましょう

県連 医学生担当 大槻 真由美

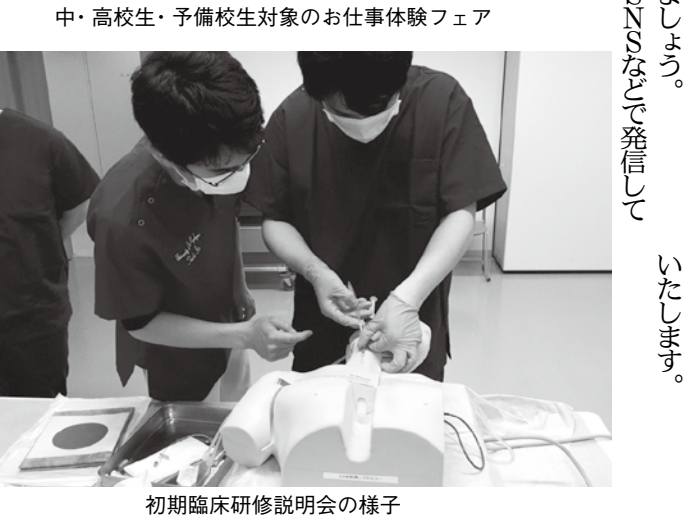


き、被災地と環境問題を考えるフィールドワークを開催します。また、3月下旬からは、新入生や高校生の一泊医師体験を、坂総合病院、長町病院、泉病院、松島海岸診療所にて実施します。感染対策上、人数制限を設けて実施する予定ですが、早くも募集定員の半分が埋まっており、学校訪問などで積み上げてきた活動の成果の現れかと感じています。

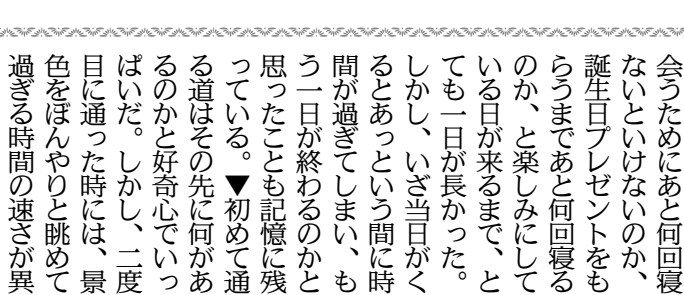
コロナ禍の2年間、ほぼ膠着状態だった活動を前進させたのは、学校訪問を行う中で出された学

校の先生方の声や、お仕事体験フェアを通じて知り合った学生たちの声です。「もっと現場に直接出向いて自分の目で見て、体験させたい」という声に、私たち医学生担当者も本気で心えていかなければという気持ちにさせられました。オンライン企画ではなかなかつながりが深まりにくく、これからの医療現場での体験は、ひとりでも多くの学生に民医連の医療活動を知ってもらおうチャンスだと捉え、対応していきたいと思えます。

医学生には、学習活動や説明会、実習などかわりながら、医学生が



中・高校生・予備校生対象のお仕事体験フェア



初期臨床研修説明会の様子

は「うちの病院なら中断チェックを必ずするから、8年も中断したままなんてないだろう」ということでした。しかし、それこそが「民医連ならではの医療活動なのだ」と気づきました。みなさんが日頃から患者さんに誠心誠意向き合っていることが「宮城民医連のいいところ」だと思えます。そんな「いいところ」を探し、いいとこアピールにぜひお付き合いいただき、存分に学生に伝えていただきたいと思えます。みなでたくさん仲間を迎えられるように一緒に取り組んでいきましょう。

SNSなどで発信して

「うちの病院なら中断チェックを必ずするから、8年も中断したままなんてないだろう」ということでした。しかし、それこそが「民医連ならではの医療活動なのだ」と気づきました。みなさんが日頃から患者さんに誠心誠意向き合っていることが「宮城民医連のいいところ」だと思えます。そんな「いいところ」を探し、いいとこアピールにぜひお付き合いいただき、存分に学生に伝えていただきたいと思えます。みなでたくさん仲間を迎えられるように一緒に取り組んでいきましょう。

SNSなどで発信して

「うちの病院なら中断チェックを必ずするから、8年も中断したままなんてないだろう」ということでした。しかし、それこそが「民医連ならではの医療活動なのだ」と気づきました。みなさんが日頃から患者さんに誠心誠意向き合っていることが「宮城民医連のいいところ」だと思えます。そんな「いいところ」を探し、いいとこアピールにぜひお付き合いいただき、存分に学生に伝えていただきたいと思えます。みなでたくさん仲間を迎えられるように一緒に取り組んでいきましょう。

SNSなどで発信して

## 第7回 J-HPHカンファレンス2022 ヘルスプロモーションの大切さを実感

坂総合病院 地域健康課 咲間 優

昨年の11月12・13日、東京の会場とオンラインによるハイブリッド方式で「第7回J-HPHカンファレンス2022」が開催され、255名が参加しました。県連内の事業所からも、10名程度が参加しました。

「HPH」って何...という方も多いと思います。が、「Health Promoting Hospitals & Health Services (健康増進活動拠点病院と健康サービス)」の略称で、日本HPHネットワークはWHO(世界保健機関)傘下の組織です。「Health Services」という文言が

加筆されている理由は、健康増進活動を行うのは医療機関ばかりではなく、様々な組織が健康サービス活動を担う必要がある、ヘルスプロモーションは多様な組織に関連する分野であることを意味しています。ヘルスプロモーション活動とは、「健康を維持・増進するための仕組み作り」のことで、患者・地域・職員等の様々な対象へ向けたヘルスプロモーション活動があります。

カンファレンスの内容は、「医療と介護にヘルスプロモーションを実装化するヘルスサービス

の進化を目指して」のテーマで開催されました。基調・教育・特別講演のそれぞれにおいては、獨協医科大学の小橋元教授から、「多職種連携・住民主体の取り組みでのちと健康・幸せを守る」公衆衛生とヘルスプロモーション、慶應義塾大学の伊香賀俊治教授から「住宅環境における健康リスク」、台東区立台東病院の山田隆司院長から「地域ヘルスプロモーション病院の実践」と題したお話をお聞きしました。この他にも、パネルディスカッション、ワークショップ、研究報

**健康手帳**

年を重ねるごとに一日が早く過ぎてしまふように感じる。小学校、中学校、と幼い頃は様々なことが初めての経験で、驚きもあって一年がとて長く感じた。祖父母に会うためにあつた何回寝ないといけないのか、誕生日プレゼントをもらうまであと何回寝るのか、と楽しみにしている日が来るまで、とても一日が長かった。しかし、いざ当日がくるとあつたという間に時間が過ぎてしまい、もう一日が終わるのかと思つたことも記憶に残っている。▼初めて通る道はその先に何があるのかと好奇心でいっぱい。しかし、二度目に通った時には、景色をぼんやりと眺めて過ぎる時間の速さが異なるように思う。人は色々なことを経験していく度に、少々のことは心に残りにくくなる。そう。感情とともに時間の流れの感じ方が変化するだろう。▼入職してから時間の流れが速く感じるの、仕事に慣れたこともあるのだろうか。経験を積んだからこそ予測し、対応する際に焦ることも少なくなった。その反面、役割も増えて時間にも追われているように感じる。▼ただ仕事をこなすような過ごし方は何だか寂しい。楽しみをみつけないと、過していきたくはない。今日この頃だ。

日本HPHネットワークのホームページはこちら

<https://www.hphnet.jp>

# 東日本大震災の

## 被災者支援について考えた

2月25日、坂総合病院 8階会議室をメイン会場 被災者支援を考える学習



健康調査の報告を聞く参加者

企画が開催されました。坂会場とオンラインで約80名が参加しました。

問の目があるから、いいところに住んでいると口にしてはいけないと話している。静かに暮らしているんです」と話されました。インタビュアー、新幹線の通る音で何度も声が途切れ、住んでいる環境のことを考えさせられました。

が悪くても医療費が心配で受診を我慢する人が少なくない、「1人暮らしが半数を超え、うち55%は70代以上」等を報告しました。また、社会活動への参加が少なく、困ったときの相談相手もいないなど、地域から孤立しかなない状況があり、健

康や生活状態は悪化しているとして、対策を県や市町村に要望すると述べました。

閉会あいさつで宮沼弘明県連会長が、「心の復興は12年経ってもできていない。訪問調査等、被災者支援の活動をつづけていこう」と話されました。

を強化して来たこと、無料低額診療の取り組み、他機関との連携で医師養成に力を入れている等の話がありました。

最後は職種別交流会を行ないました。今回のようなオンライン見学の取り組みは1度で終わらずに、今後も継続してほしいと感じます。

### 全日本民医連

## 第45期第1回診療所実践交流会

松島海岸診療所 事務 高橋 康則

2月23日、全日本民医連主催、第45期第1回診療所実践交流会がオンラインで行われました。

見学という初の試みがあった。所長代行の武井大医師によるガイド

た。所長代行の武井大医師によるガイドで所内を回り、進行役がチャットの質問をリアルタイムで武井医師に質問してく

私には「質と安全の向上」に参加しましたが、他の分科会も先進的な取り組み内容があるので、できれば期間を決めてWebで視聴できると良いと思います。

トルコの地震は12年前の東日本大震災を思い出します。地震から1ヶ月は記憶にないくらい必死に生きていたなど思いま

た。はじめに、仙台市、東松島市、塩釜市の災害公営住宅に住む3名の方のインタビュー動画を視聴。ある被災者は、「世

分で椅子を持って来て、井戸に飛び込んだ話もありました。

この本には忘れていた、あまり意識にさえなかった、今の情勢に欠かさない憲法に関する話が書かれていました。それは、憲法の前文です。

昨今のコロナ禍、なされるべき方向へ進まなければならないという考えが、活動をしていかなければならない岐路に立っているように感じています。

武井医師の講演では、診療所のポジションは、診療所のポジションとして在宅分野と有症状者外来

の目を気にしての生活には心が痛む」等の声が聞かれました。

分科会は、①アウトリーチ、②育成1、③育成2、④質と安全の向上、⑤経営改善、⑥コロナ対応、⑦自治体との連携、の7分科会がありました。

連載 149

## 私の好きな憲法は何条?

南光台地域包括支援センター 保健師 芳賀明子

弁護士の白神優理子さんが書かれた『日本国憲法は希望』を読みました。一番心に残ったのは戦争の体験談です。これまで聞いていた以上の惨劇、酷い体験談でした。外国の兵士ではなく同じ日本兵に目の前の家族を殺されたり、一緒に戦火を逃げた方が翌日には隣で亡くなっていたり。集団自決は決して自分たちが判断したのではなく日本軍の強制だったり、井戸に投げられた母親を追って、4才くらいの子が自

た。この本には忘れていた、あまり意識にさえなかった、今の情勢に欠かさない憲法に関する話が書かれていました。それは、憲法の前文です。

「政府の行為によって再び戦争の惨禍の起ることのないようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。」私は憲法9・13・25条とも好きですが、これを読んで私の好きな憲法は前文となりました。本当

この70年以上、平和を保っているのは当たり前で、国民の努力がなくてはなりません。「防衛費」、「集団的自衛権」など、言葉をソフトなものにしながら、2013年から増加に転じて以降、年々着々と増加して



この70年以上、平和を保っているのは当たり前で、国民の努力がなくてはなりません。「防衛費」、「集団的自衛権」など、言葉をソフトなものにしながら、2013年から増加に転じて以降、年々着々と増加して



7つのマチガイ [問題]上の絵と下の絵では7つのマチガイがあります!どこでしょう? (作・野上和彦)



クイズの解答は事業所名、氏名、職種を記し、連事務所に送ってください。メールは不可。Facebookは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。声の欄に掲載させていただきます。応募資格: 臨時・パート含む県連職員。締切: 4月15日。当日消印有効。発表: 5月1日。2月1日号答え: シンネンカイ(新年会)。応募総数: 19件。当選者: 鈴木桂子/長町病院、堀内弘江/坂総合病院、佐藤鈴/古川民生病院、津田ひな子/古川民生病院、檀原洋/事業協(敬称省略)

渡辺 裕美 しかぜ

